

同窓会報

発行者
上田千曲高等学校同窓会

印刷所
(有)アオヤギ印刷



創立80周年記念事業にて旧電気科実習棟(校庭南側)が改装され桐葉館と称す。11年度の総会はこちらで開催された。



二十一世紀への期待

同窓会副会長 若林 邦彦
(昭三十七・電卒)

会員の皆様には益々ご健勝にてご活躍の事と心より御慶び申し上げます。

平成九年に当校設立八十周年記念行事を盛大に開催させていただきました。それを機会としてしばらくの間卒業生を巻き込む企画の少なかつた同窓会が事務局の先生方そして同窓会役員そして数多くの同窓生の御支援を頂き、年を重ねるに従って盛会を極めております事は同窓生一人一人として大変喜ばしく又心強く感じております。来る九十周年更に百周年記念に向かって大いなる御協力を心から御願いたしますので御座います。そして同窓生の多くが熱望されておりました「野球部を育てる会」が本年から同窓生の丸山正明会長を中心に熱心な活動を開始されております事も私達同窓生にとって大変喜ばしい事で有り、御協力を重ねて御願いたしましたもので御座います。昨年同窓会報で柳町副会長が申されていた通り当校の幅広い人脈が私共の財産であり、その財産を私たちの後輩達に質と量を兼ね備えた形で継承していく事が私達に与えら

れた使命では無いかと思えます。そしてその使命の達成の為にはより多くの同窓生が様々な事業に参加されることが望まれます。本年度も一人でも多くの同窓生が参加され易い事業の推進を念頭に於いて実行させて頂く所存で御座いますので、皆様からの数多くの御指導、ご叱正を賜りますようお願いいたします。

さて、私事に亘って恐縮で御座いますが、私は昭和三十七年電気科(第二回)の卒業ですが、入学時は県下が十二学区制に移行された年で御座いました。私共の兄や姉は軽井沢や篠ノ井からの通学生と机を並べておりましたが、私たちの年から現在の学区区になった訳であります。この変化に対しての評価は本年、県に設けられた検討会によって論じられる事と成りますが、私見では御座いますが、消費者に当たる学生が多くの選択肢を持つる教育の多様化を推進する上では必要因ではないかと思えるのは私一人では無いと思うのですが、如何でしょうか。近日の

学力の諸外国との比較における低下も含めて真剣な検討と結論を期待するものであります。

私は二十一世紀の教育に必要な事は誰もが、高学歴を目指すのではなく、本当に社会が必要とする技能を習得できる教育、更に日本の産業の根幹をなす欧米のマイスターやアルティザンに相当する伝承技術を現場に於いて教育する、産学が一体となった、現場重視型の教育が大切な時代を迎えていると思うのです。何故なら明治以降の繁栄は将にその様な教育を受けた人達によって達成されたからです。現在の座学偏重の社会で本学が受け持たなければならぬ役割は非常に大きなものがあると思えます。同窓生の一人として大きな期待を致しまして御挨拶とさせていただきます。

同窓会協力金 (2年分で2,000円) 納入のお願い

この会報は皆様の運営協力金にて発行されております。
8ページをご覧ください。

還暦の修学旅行

昭18〜38年恩師・綿貫隆正

修学旅行と言えば、学校生活の中では最も楽しい思い出となる行事の一つで、誰もが経験する筈である。ところがこの行事を経験しないで卒業した人達がいる。それは昭和二十一年三月卒業の人達である。私が担任をした千曲高校の前身である上田市立高等女学校の信組のクラス会で

「私達は戦時中で修学旅行がなかった。還暦になったから若返って修学旅行をやりませんか、先生私達を連れて行って下さり。」

という声が出て、即刻拍手喝采、計画は私に一任ということになった。丁度その頃JTB上田支店で千曲高商業科出身のS君が営業課長をしていたので、早速彼に相談をしてコースを組み立て、京都奈良を目的地として二泊三日の日程で実施することにした。

「添乗は僕が行く」と彼は言う。私としては願ってもないこと。参加者は二十二名、その中には教職経験者が六名、経理経験者もあり、引率、保健、会計等ペテランが揃っていたので、役者に不足はなく、自主的に積

極的に推進してくれた。

京都の旅館は鴨川沿いで、松菊園と言つて、幕末の志士柱小五郎、のちの木戸孝允の屋敷跡である老舗で、孝允の号松菊に因んで屋号とした。京の情緒豊かな旅館であった。夕食案内で生徒が会場へ行くと上田市立高女信組様と卒業当時のクラス名の標示があったので、白髪の見え始めたおばさん達がそこに行くこと

「ここは修学旅行の生徒さんのお席です。皆様はどちらの団体さんですか。」

と仲居さんに言われ、生徒は顔を見合せて戸惑っているとこゝろへ私とS君が行つて、「ここが私達の会場だ」と言う、今度は仲居さんがびつくり

「あつー皆様が生徒さんですか」で大笑い。宇治平等院でも「一般入場口」へと指示されたので添乗員が団体だと説明すると係員がびつくり、

「どういう学校ですか？」

車の中は若返つて冗談も飛び交い賑やかなこと。添乗のS君は同窓の後輩だから弟のように親しまれ、人生経験豊かなおばさん達だから万事行き届いておつた。

見学は非常に意欲的で、熱心で、比叡山では態度がよくてほめられるなど、単なる観光ではなく、旅行目的にそつた成果が

あつたと思う。修学旅行の雰囲気は卒業後年数が経つていてもやはり独特のものがあるようだ。教室で培われた友情は何年経つても変わらないし、互いに音信はなくても会えば直に級友としての友情が蘇ってくる。友情は人生の美しい華のような気がする。

ふるさと

西東京市への思い
— 人生の第三楽章 —

東京都議会議員
坂口 光治(昭41・電卒)

うさぎ追ひし かの山
小釣りし かの川
夢は今も めぐりて
忘れがたき ふるさと

いかにいます 父母
つがなしや 友がき
雨に風に つけても
思い出さず ふるさと

こころざしと はたして
いつの日にか 帰らん
山はあおき ふるさと
水は清き ふるさと

月日のたつのは早いものである。第一のふるさと信州上田での生活18年、東京での学生・教員生活18年、議員生活16年、気がつけば人生の第三楽章も後半の展開にさしかかっている。

第二のふるさと西東京市は、都の西北に位置する人口約18万人の都市で、二〇〇一年一月二十一日、旧田無市と保谷市が合併して誕生した新しいまちである。

東に練馬区・杉並区、南に武蔵野市・小金井市、西に小平市・東久留米市等が隣接する多摩北部地域の歴史あるまちである。

近年まちの魅力は、歴史(ヒストリー)、夢と構想(ドリーム&ビジョン)、景観(サイトシーイング)、音楽と味(ミュージック&テースト)、買い物(ショッピング)などと言われているが、これらを意識した個性的で魅力的なまちづくりへの挑戦は、これからの課題である。

明治の初年多摩地域の人口は約25万人、しかし今や390万人となり、78の大学・研究機関が林立し、先端産業のメッカとなっている。

また日本の歴史にも大きな影響を及ぼした、自由民権運動、農地解放運動、平和運動や基地返還運動、労働運動、革新自治体運動、市民運動、生活者の運動、各種NPO・NGOの運動

などを生み出してきた地でもある。

つまり、西東京市を含む多摩地域は、過去の歴史から日本の未来を生み出す大きなエネルギーをもった、日本のシリコンバレーとも言える“温故創新”の地でもある。三多摩(北・南・西)が変われば東京が変わる、東京が変われば日本が変わると言われるが、21世紀の地方主権の時代、魅力ある自治体のモデルは、多摩地域から生まれると考えている。

しばしば西の芦屋、東の武蔵野などと言われるが、その背景には、財政力、市民の自治意識、文化の成熟度などが上げられる。第一のふるさと上田はどうか。

私は今、六月の熱い戦い(5期目)を静かにふり返りながら、“一人ひとりが輝き支えあえる西東京市”、全国のモデルになれるような西東京市の実現を、人生の第三楽章後半の主題にすえながら、その夢と構想を温めているところである。



技術先端を走る (株)石原産業

石原張男社長のご紹介

本同窓会の理事をされている機械科昭和29年度卒の石原張男さんは、丸子町平戸工業団地にある石原産業の社長である。

三十三年前に東京から地元に戻り起業し、現在の盛隆の先端企業に成長させた努力の人である。創業の当時は奥さんとの鶏小屋改造の工場であった。

ブレーキ部分を加工する仕事で、加工法も石原さん独自のアイデアを考案し順調に業績も上がった。自動車産業の発展の時代である。ここに、石油ショックの嵐がやってきた。

多角化の戦略はこの時代からの石原社長の方針である。新聞情報から石原さんは「これだ」とのヒラメキを見たのは新機種ワイヤーカット放電加工機であった。精密加工の先見性と事業経営の方策に、石原社長は全社をあげての取り組みの先頭にたった。

精密加工の社会的要請と石原産業の高精度の製品は、現在の石原産業の基盤を確固たるものにしたのである。近年は、信大、NITなど研究機関との共同研究にて、外部経営資源を活用し

て将来の事業活動への展開も進んでいる。その一つに光ファイバー接続部の低損失変換精密加工技術である。同社はこの将来性のある加工工場を立ちあげて量産体制を整えている。

「技術の向上は人材に尽きる」との石原社長の理念のもと、全社員が現代社会の高技術への向上心を持っていてほしい会社である。益々の発展を願っております。

同期生交歓

昭33卒同期会幹事 大川 秀一
(昭33・機卒)

昭和33年に卒業した私達の学年は、全体で九クラス、三百六十五名にのぼります。

(建一、機二、商二、家四クラス) この時の同期生が、平成十二年十月に戸倉上山田温泉、清風園に集いました。

過去において、巣立ちから三十年の節目を迎えるに当たり、昭和六十二年と六十三年に会が持たれていました。今回は丁度二十世紀の最後の年に当たると同時に、たまたま、この学年が還暦を迎えているという事で、第三回目の開催となりました。

母校を離れてから、いつの間にか四十二本の年輪を重ねております。



そこには20世紀後半の歴史が彩られ、その年輪のまにまに沢山の輝ける結晶がちりばめられている感じです。

中には四十二年ぶりの再会であつたりして、今でこそ明かされる楽しく懐かしい思い出の数々から、現況報告等々、民謡の原田直景さん(西沢久夫さん)に出演頂きながら、歓談に花が咲きました。

当日は、現校長の石田英勝先生にもご臨席いただき、六名の恩師、綿貫隆正先生、沓掛ひで先生、塩野入重徳先生、田中照作先生、木内勗先生、相馬今朝一先生をお迎えいたしました。

教師と生徒が一緒に汗を流し桐の木を植えて育てた時代の、様々なドラマや歴史とエピソード、野球応援の話、満場に笑い飛ばしたり、教訓の有り難さを一層深めて頂いたりと、感動したり、感謝したり、全先生から貴重なお言葉を賜りました。北海道から関西方面まで九十一名の皆様が参集し、時間の限りをつくしての同期会が本当に和やかで盛会となりました。

千曲高校の力強い創造的な発展の姿を見られる今日、その営みの偉大さに敬意を表し、母校との恩師に感謝しつつ、新たな思い出を土産に、皆、満足し、笑顔で手をふりながら散会しました。

千曲交友会の活動状況

千曲交友会テニス部OB会
会長 長田 功 (昭31・商卒)

千曲交友会の前身は昭和26年当時卒業の先輩方が「白風会」と名付け結成。当時名伯楽としてご指導された顧問の西沢豊先生を慕って、毎年多くの卒業生が合宿期に参加。後輩部員と一夜共にした楽しい思い出が残っている。

その後「千曲交友会」と改称し発足したが、西沢先生の転校、



千曲祭でテーブルカットする学校長

「千曲を変える」

後援会組織「野球部を育てる会」の発足について

同窓会・育てる会会長

宮澤 令行（昭33・建卒）

同窓生の皆様にはご健祥にて活躍のことと拝察申し上げます。又日頃は同窓会にご協力を賜り厚くお礼申し上げます。

さて、創立八十周年記念の折に大勢の同窓の方々とお会いする機会がありました。そのときに出ましたお話は、異口同音に本校野球部の成績についてでありました。そのときは、自分が責められている気分で大変困惑したことを覚えております。以来、会員の皆様の期待に答えるためにも、何とか良き指導者及び強い選手の確保をと気を揉んで参りましたが、思うように前進するまでには至りませんでした。しかしながら漸く一昨年の秋に本校野球部OB（山本光雄氏）から、旧職員（相馬今朝一先生、元県高野連会長）さんを通じて野球部のコーチ又は監督として、元甲子園児（上田高校時代）で明治大学野球部出身の「日置 透」氏の紹介がありました。早速同窓会長と相談のうえ今日まで望んでいた人材に最適として受け入れていくこと

で話が決まりました。その後校長先生及び各運動部の顧問の先生方、同窓会、PTA、野球部OB会、部員の父母会の各分野の方々との協議検討を重ねた結果、昨年の十一月にコーチとして就任して頂く事に決定しました。又、本年四月からは監督として活躍していただいております。当初、本校は公立高校のため外部からの指導者を迎えるのは始めての事であり、色々な問題がありました。前述の各分野の立場からご検討頂き、最終的に野球部OB会を中心に「野球部を育てる会」として野球部後援会組織を結成し全面的にバックアップして行くことで発足に至った次第です。過去をみても高校野球が頂点を極めた時の与える相乗効果は学校のみならず地域社会の活性化にも寄与する事はご存じの通りです。つきましては、別記の要領にて個人及び企業の会員の募集を致します。是非入会の上でご支援を頂ければ幸いです。

日置監督の経歴は、明大卒業後、お父さんが相談役を務める会社の関連会社のスポーツ事業部に所属し、今までに名門拓大



夏の大会にて

紅陵の寮監、上田西高校コーチ、上田南リトルリーグの指導者として活躍されて来ました。お陰様で今年は部員も倍増し、今迄に無い活気のある練習を見る事が出来ます。特に新入部員は中学やリトルリーグでの経験者です。今後の期待は大です。まずは一勝からと全員頑張っています。是非グラウンドにお出掛け頂き激励して下さいよう希望致します。

「野球部を育てる会」協力のお願

野球部OB会長・育てる会副会長 林 明男（昭35・建卒）

猛暑が続きますが皆様にはますますご清栄のこととお慶び申し上げます。

日頃は上田千曲高校野球部に暖かい御支援をご協力を賜り誠にありがとうございます。

さて、近年野球部は低迷を続けており、皆様方より「野球部は何とかならないか」と度々言われて参りました。昨年夏より同窓会を中心として野球部の強化と発展を願い「野球部を育てる会」が今年四月に発足致しました。

「育てる会」の初仕事として、昨年十一月より学校外部コーチとして日置透氏（上田高・明治大学野球部OB）を、この四月前任者の転出に伴い、監督に就任していただきました。夏期全国高校野球長野大会で飯田高校に六対三で惜敗しましたが、秋の大会目指して猛練習に励んでおります。

このように、OB会・「育てる会」では経済的支援のため募金活動を行っております。不透明な経済情勢のなかではありますが同窓生の皆様方には誠に恐縮ではございますが、野球部の強化と発展のためご理解のうえご協力をお願い申し上げます。

記

郵便局 払込取扱票
0590 3 71549
上田千曲高等学校野球部を育てる会
問い合わせ先
電話 〇二六八一三八一三二六六
野球部を育てる会副会長 宮澤 令行

払込取扱票		払込金受領証	
02	0590371549	005903	71549
上田千曲高等学校野球部を育てる会		上田千曲高等学校野球部を育てる会	
金額 2000		金額 2000	

また、近隣の有望選手の勧誘、大会及び練習試合への応援等でできることがあれば精一杯個々に協力し、組織力も生かす方向も確認されております。



80周年記念に寄贈の楽器にて吹奏楽班、千曲祭の発表

**バレエ部OB会
「桐花会」の二十周年
記念及び総会について
のお知らせ**

本校バレエ部に所属したOBによる「桐花会」がお陰様で創立以来今年で二十周年を迎えるに至りました。

つきましては左記により二十周年記念イベント及び総会を開催致しますので、OBの方(バレエ部に所属された方は全員が対象)是非参加して下さい。また、バレエ部以外の本校のOBで参加を希望される方も歓迎致しますので、奮ってお申し込み下さい。御待ちしています。

記

◎ ソフトボール大会
日時 平成13年11月25日(日)
午後一時集合

場所 上田市民体育館
(上田公園内)

参加費 無料

◎ 総会及び懇親会

日時 同日、午後五時三十分
場所 上田温泉ホテル「祥園」
中央一―二―二―

電話二二―二二三三三

会費 年会費千円(会員のみ)
懇親会費 四千円

◎ 申込締切 十一月十日迄

◎ 申込先 事務局
〒三八六―〇〇二―
上田市中央三―二―五
石沢 清枝宛
TEL/FAX 〇二六八―三―四八八四

**電気科第二回総会
・記念行事開催される**

電気科同窓会長
春原 宗明(昭36・電卒)

公教育の危機が叫ばれている中で、学級崩壊や殺人事件等様々学校を取り巻く環境が様変わりとなつて、今学校で何が起きているのか、そして我々が何をなすべきなのか問われている所でもあります。

わが電気科も一昨々年創立四十周年記念総会・シンポジウムを開催、昨年は第二回総会・記念行事で先輩と語るとし、後輩三年生諸君とひざを交えて対話を致しました。IT化の進行と共に、人と人との直接対話が薄れていく中で、先輩と後輩、先生と生徒等直接に伝えなければならぬ事があります。目と目で語り確認し、尊敬し、される関係ぜひ構築したい、そのために先輩・先生方と連携を図り、先輩の生き抜いて来た話、又三年生諸君の高校生活や先生、友達、部活動について熱く語り、お互い自由なディスカッ

ションを行い有意義な一時となりました。その後第二部として市内祥園にて総会・懇親会を盛大に開催された。尚この模様は同窓会ホームページにて紹介されている。
<http://www.tchikuma-hueda.nagano.jp/index1.htm>

進路室から

進路指導主事 小松 毅雄

(1) 進路概況

専門性を生かした高校として地元企業からの期待は大きい所です。昨年の就職者は、卒業生の31%で過去最低。進学者は増加して64%を示した。進学者は、専門性をより高めるための学校選択が見られた。

(2) 就職状況

深刻な社会状況ですが、地域の専門高校として築きあげた伝統、実績と、諸先輩のご活躍に支えられ求人数は多い所です。近隣では最も恵まれている。昨年は、職種の枠を柔軟に考えれば、希望者全員の就職が達成できた数です。専門高校の強みが地域で高く評価されているからであろう、工業系からの需要には心から感謝しています。

(3) 進学状況

入試方法が多様化され、さまざまな方法でチャレンジできるよになつてきました。本校は殆どが推薦入学になつている。各学科ともいくつかの大学からの指定校枠を得ている。専門高校の特別推薦による合格率も高くなつている。四年生大学進学者は、前年より10人増。短大進学者は、商業、食物栄養、生活福祉の各科が中心で、推薦受験、希望者全員が合格。専門学校進学者は、最も多く100人を超えた。入り易さの魅力、即戦力の要請、多様な分野で学べる点で、人気を得ている。

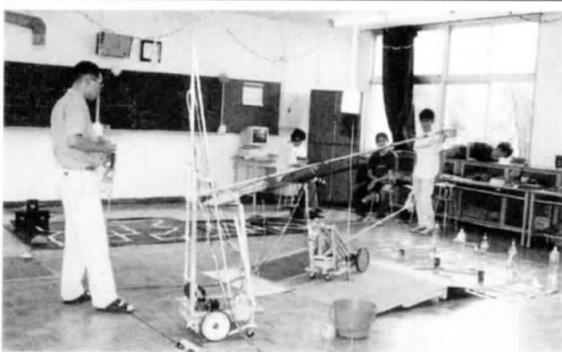
(4) 昨年度実績(一部を紹介)

◎ 就職91名(就職先企業敬称略)
日新建設、幸和建設、斎藤木材工業、興和興業、城南製作所、コトヒラ工業、中村工業、カヤマ、イツシン工業、竹内製作所、シナノケンシ、アート金属、イケダ、石原産業、アツマ、多摩電気工業、オルガン針、トージェネック、シリコンテクノロジー、ミヨタ、柳沢精機製作所、上燃、ミヤノ、信州ハーネス、星野リゾート、ティーシーエム、エスエスアイ、武富士、ゆたかや、コクド長野、ケアホーム上田、チェリーガーデン、ライフコミューン、など

◎ 進学191名(順不同)
・ 四年制大学 (33名)
日本工業大、日本大、足利工大、東洋大、長野大、金沢工大、駒沢大、立正大、日本福祉大、山梨学院大、など

・ 短期大学 (55名)
飯田女子短大、共栄学園短大、長野県短大、大月市立短大、上田女子短大、信州短大、清泉学院短大、松本短大、群馬社会福祉短大、東京農大短大、など

・ 専門学校 (103名)
国立長野看護、佐久看護、長野県福祉大学校、日本工学院、中央工学校、群馬自動車整備など。さらに理美容、福祉、調理、製菓、栄養、保育、ミュージック、スポーツの各方面の学校。



千曲祭にて、ロボットコンテスト出場機の展示

全日制近況

全日制教頭 中村 喜三

同窓生の皆さんこんにちは。日頃から本校の教育に関し多大なご尽力を賜り、厚く感謝申し上げます。

現在本校には全日制七学科八学級、定時制一学科一学級の合わせて約一千名の生徒が学んでおり、時代の変化と共に生徒の生活環境、学習環境は大きな様変わりを見せつつも、先輩諸氏の築かれた千曲魂を受け継ぎ、若さに満ち溢れた活気のある学校生活を満喫しております。

学校長の教育理念の中に高等学校は学習の場であるとあります。専門高校として七つの学科がそれぞれに掲げた目標に向かい、日夜職員・生徒共々忙しい日々を送っております。

クラブ活動の今年のこれまでの活躍状況をお知らせします。高校総体では男女ソフトテニス



機械科実習の風景

班団体・個人、陸上、ソフトボール、男子バスケットボール、男子ハンドボール、柔道、男女バレーボール、男女卓球団体・個人、水泳、県大会に駒を進め、男子ソフトテニスの個人の部では二位と三位になり、北信越大会と全国大会の切符を手に入れました。現在八月に熊本市で開かれるインターハイに向け、朝夕監督の先生方の特訓を受け、猛練習に励んでいます。一方文化系に目を転じると、商業簿記の活躍が光ります。過日小諸商業高校で開かれた長野県簿記コンクールでは、団体で二位、個人の部では三位四位五位、しかも出場者七名全員が二十位以内に入るといふ他の商業高校に見られない好成绩を修めました。中でも二年生の活躍が素晴らしく、来年の団体優勝に期待が持てます。全国大会は七月下旬に東京都で開催されます。又、先日行われた全国高校I・T簿記選手権信越大会簿記部門でも団体で三位になり、これまた八月に大阪府で開かれる全国大会への出場権を手に入れました。紙面がなくなりました。学校全体の様子はインターネットホームページにアクセスしていただければ幸いです。

<http://www.ichikuma-h-neda.nagano.jp/index1.htm>



電子機械科3年 家庭一般 (4単位/必修) の授業風景

定時制の近況

定時制教頭 宮下 武美

会員の皆様には、平素より本校定時制の教育活動及び振興に暖かいご理解とご援助を賜り深く感謝申し上げます。

本校定時制は、地元の産業界の強い要望により昭和三十六年に機械科一学級が設置され、初年度の入学者は三十九名で、中学卒業者と過年度卒業者が半ばで「働きながら学ぶ」という勤労青年の受け入れ機関として堅持してきましたが、近年の在籍者は、中学時の不登校、全日制の不合格者の二次募・近募生徒、他校中退及び全日制からの転籍生徒からなっています。保護者及び本人は高校卒の資格を得る目的で入学しておりますが、中には専門の機械を学び技術を身につけたいと望み遠方より登校している生徒もおります。中学時に不登校の生徒も高

校入学後就労することにより社会性を身につけ学習の必要性を感じて登校しております。最近の入学者は十名前後で、少人数の学級のため、個別指導により、学力も向上し、本年三月五人の卒業生のうち短大一名、専門学校二名進学しました。現在定時制の全職員によるきめ細かい指導体制で、学習・生徒指導、進路指導等において教育効果をあげています。

今年度定時制体育大会では東信大会でバドミントン、卓球、野球で勝ち、県大会に出場しました。卓球個人戦では優勝し、全国大会及び北信越大会の出場権を得て練習に励んでおります。

最後になりましたが、皆様方のご活躍とご健勝を祈願申し上げます。

関東支部総会

関東支部会長 成澤 學 (昭27・商卒)

上田千曲高校同窓会の皆様、昨年の関東支部総会は、約100名の参加があり、基調講演は、片山幸子先生に「心のふるさと」についてお話をいただき、またアトラクションには、演歌歌手、依田典子さん(昭54・家卒)に来ていただき会を盛り上げていただきました。

今年の関東支部の総会も昨年に劣らず盛大に開催出来るよう役員一同会合を重ね努力しております。お知り合いの方々にも声を掛け合せて是非とも多数ご参加いただけますようご案内申し上げます。



11月17日(土)、午後1時から地下鉄乃木坂駅の健保会館「はあといん乃木坂」において、柳沢武(昭31・機卒)実行委員長のもとに開催予定です。多くの皆様のご参加を期待しております

◎問い合わせ先、

埼玉工業大学深町研究室、
電話〇四八―五八五―六八五六



平成13年度 上田千曲高校 同窓会総会のご案内

今年の総会会場は、親の後の帰路、久しぶりの再会の交流に便利を考えたいとの意見から街の中心地での開催となりました。お互いに誘い合って、多数の同窓生の集いとなります様にご案内を申し上げます。

日時 平成十三年九月八日(土)
受付 午後一時半より
総会 二時より
講演 木下 豊氏「育てたい、語らいの文化」
懇親会 四時頃の予定
場所 上田東急イン(電、二四一〇一〇九)
会費 三千円(受付にて)
申込締切 九月一日(土)
申込先 千曲高校同窓会へ葉書又はFAXでお申込み下さい。
(FAX二二二一五三七〇)

総会講演者 木下豊さんのご紹介

小布施町出身の四十二歳。81年、明大法卒、東京法令出版、須坂新聞社勤務を経て、89年に独立。豪州、フィリピンに一年半ほど滞在。94年「アラ・小布施」に入社。99年に編集プロダクション「文屋」を設立、現在はその代表を務めておられます。
木下さんは「地域を良くするには語り合うしかない。地元だ

けでなく、外部の声にも耳を傾けて」と言う思いから、今春、「ベータシツクノート 志賀高原」を発刊されました。
登場者は小澤征爾、田中康夫、猪谷千春、神田正輝、中島千波、等々の署名なる四十人。
自然を愛し、歴史、体験など可能性いっぱい志賀高原の近未来像が語られ、より魅力的な創造が述べられております。
「ベータシツクノート」の第二弾は「小布施」を取り上げる予定だそう。これらの取り組みは、まちづくりの試金石になるとの全国的な、高い評価を受け



生活福祉科、アイマスクの実習

られております。
この総会場で、紹介の「志賀高原」の販売も考えております。さらに、木下さんのご好意で「オープンガーデンブック」なる冊子を出席者に無料配布して下さるとの事です。
これは小布施町委託の一般家庭の庭園を写真入りで紹介し、一般に公開するという全国でも珍しい試みです。
木下さんや、お仲間の、地域を良くする波紋の様子をお聞きできる楽しみと、又、木下さんは「皆さんと対話、意見交換」を望んでおられます。どうぞ、多数のご来場を願っております。

同窓会より

同窓生の皆様には常日頃の同窓会活動にご尽力を戴いております。誠に感謝を申し上げます。
平成十一年度には、この会報の発行に協賛広告をお願いし全員の皆様に配布する事が出来ました。この際に二年分、二千円の「同窓会報発行および同窓会館(桐葉館)運営協力金」の振込を一九二四名の方々より募金をして戴きました。誠に感謝を申し上げます。
お陰様で、十二年度にはこの資金にて、募金を戴いた会員の皆様には昨年も会報をお届け出来ましたし、今回の全員の会報発行も可能となりました。
つきましては、同封致しました振込用紙にて「二年分、二千円」の協力金の振込みをお願い申し上げます。
多数の会員の皆様から募金して戴き、桐葉館運営、会報の全員配布、各支部活動の益々の活性化が出来ます様に重ねてご協力をお願い申し上げます。
振込用紙は経費節減の為に会員氏名、郵便番号、住所、卒業の科、年度、会員番号が記入されています。次年度の会報は、募金にご協力戴いた方々の宛名をタックシールを発注(電算機にて抽出)し

—協力金募金のお願い—

会員のご協力を戴きこの会報が発行されております。来年度の会報郵送の為に、振込票の依頼人欄の記入に

- ①郵便番号
- ②住所
- ③氏名
- ④卒業の科名、年度
- ⑤宛名書きの氏名の下欄の会員番号を正確にお書き下さい。

編集後記
前年に続いて皆様に同窓会報をお届け出来る事を嬉しく存じます。
各界、地域でご活躍の会員の寄稿を戴き、紙面を飾ることが出来ました。今後も様々な声をお聞きし、愛される会報となります様に願っております。

て郵送できる様に考えています。ご記入は正確にお願いします。